



# る う て る

2013年  
**1**月  
No.781

■発行所■  
日本福音ルーテル教会事務局広報室  
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1  
電話 03-3260-8631  
■振替口座■ 00190-7-17134  
■ウェブサイト■ <http://www.jelc.or.jp>  
■E-mail■ [jelc@jelc.or.jp](mailto:jelc@jelc.or.jp)  
■発行人■ 徳野昌博 m-tokuno@jelc.or.jp  
■印刷人■ 精文堂印刷株式会社  
■定価■ 1部 40円 (郵税を含む)

## 説教「突き刺さる時間」

日本福音ルーテル市ヶ谷教会牧師 浅野直樹

何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある。…」  
コヘレトの言葉 3章1節〜10節



憎んでいる時には神がそばを向いて無関心なのではないのです。

### 神の時間

私たちが日常生活で使う時間というのは、日めくりカレンダーや時計の時間です。過去から現在そして未来へと刻みながらひたすら流れゆく時間です。それに対してコヘレトの時間は過去から未来へコツコツ流れておらず、突如上から降って突き刺さってくるような時間です。手帳で管理できない「出し抜け」の時間です。コヘレトのこの時間は、神の時間を語っています。神の時間なので私たちは予定できません。計画に入られません。説明がつかないのです。ですからコヘレト自身も呻吟したのです。神がいてくださるのだから、なぜ救い出してくれなかったのかと。

### 永遠の時間

コヘレトはこんなことを言っています。神は「永遠を思う心を人に与えられる。」永遠こそ私たちにはどうしようもない時間です。時計で計れません。そもそも長さがあるのかないのか。ただその言葉だけはちゃんとあって、それが私たちを捕らえて離さないのです。神のみに属する「永遠」、このことばによって、私たちは神を想います。神を慕うのです。

### これからの時間

去年同様今年も思いがけずいろいろなことが起こるでしょう。世界で、日本でそして身の回りで、神は私たちに遠くから見守ってはいます。私たちに介入なさいます。イエス・キリストを私たちの世界に遣わされたように、神の時間は、今も私たちの時間に突き刺さってくるのです。私たちは、永遠という神の時間を、生かされて生きています。2013年、時を共有しながら神を礼拝し、いつものように日めくりして暮らしていきます。



宗教改革500周年に向けて  
ルターの意味を  
改めて考える(9)

ルター研究所 所長  
鈴木 浩

自動車と運転手の比較を続けよう。この逆転で重要な言葉の意味合いが劇的に変わってしまった。「恵み」という重要な言葉を見てみよう。従来の意味では、恵みとは、注がれるものであった。言ってみれば、自動車に注入されるガソリンだ。無論、神の恵みだから、無料だ。ここでは、その多い少ないが問題になり得る。この前は二〇リットル入れたが、今度は三〇リットル入れた、という具合だ。

ところが、ルターによる逆転で、恵みとは、キリストが運転席から悪魔を追い出し、代わりにハンドルを握ってくれるという、出来事そのものを指すように変わってしまう。ここでは「多いか少ないか」ではなく、「あるかないかだ。言い換えれば、「恵み」が「救い」とほとんど同義語になった、ということだ。それだけではない。信仰、悔い改め、教会礼拝、聖餐罪、善行など、重要な言葉がその意味内容をすっかり変えてしまった。無論、大もとにあったのは、あの、神の義「の理解の逆転であった。ルターとカトリックの論敵との論争が、いつもそれ違いで終わったのは、それが原因であった。

物理の時間  
「時間はどこで生まれるのか」という物理学者が書いた本を読んで、時間の不思議を思わされました。毎日時間にあわせて生活しているのに、時間なしには生活は成り立たないのです。物理学者に言わせると、そもそも時間などというものは存在しないのだそうです。あるのはただ時計であって、それが少しずつ動く様子をみて時間を気にしているわけですが、時計の中に時間の素など入っていない、ということです。そう言われればたしかにそうです。それはいいとしても、次のような説明にはちよつと

びっくりしました。わたしとその隣にいる人は、ひとつの時間を共有している。普通は考えるのですが、科学者に言わせれば、今という瞬間はだれとも共有できないそうです。さらには相対性理論と素粒子論という現代科学でみていくと、時間は空間と一緒よに考えないと意味がないのだそうです。なんだか狐につままれたような気分になります。私たちの生活の中で時間感覚というものは、物理学者が考えるそれとはかなり違っているようです。けれども私たちがとって、日常の感覚が大切なのはいうまでもありません。

コヘレトの時間  
科学が語る時間とはまったく異なるもうひとつの時間、それがコヘレトの言葉だといえます。「何事にも時があり、天の下の出来事にはすべて定められた時がある。生まれる時、死ぬ時、植

える時、植えたものを抜く時。…」。賢者コヘレトは時をしっかりと意識し、いいことも悪いこともひくくめて時の中に位置づけます。時間という苗床に生活のドラマひとつひとつを植えていくように。そしてそうしたいひとつひとつの人間模様には、「すべて定められた時がある」と、コヘレトは断言するのです。

この場合「定められた時」というのは、「あなたは来年素晴らしい人と出会いますよ」という占いの話ではありません。「何事にも時があり」とは、嬉しいことも悲しいことも、いつそれが起こるか、なぜそうなるかは私たちには知り得ないし、なかには理不尽としか思えないほどつらい時もあるが、確かなことは、そこには神が必ずおられ、泣いても笑っても嘆いても踊っても、どつちに転んでもその出来事をすべて神が支配しておられるということなのです。愛する時には神がいて、

JELC  
ホームページが  
新しくなりました  
  
<http://www.jelc.or.jp>

### 信徒の声

## 「露払いとして」

大岡山教会 / 総会選出信徒常議員 こぼやし えりか 小林恵理香

地域活性化の分野では「近年」よそ者、若者、ばか者」の存在が重要視されているそうです。外部視点でその地域の良さに気づき、従来のやり方にとらわれない手法と、「突拍子もない」と思われるような発想を取り入れられるので、彼らの関わりが欠かせないというのです。地域の人がそのような存在を好意的に受け入れ、活用できるかが成功の鍵になるそうです。この話を聞いて、自分が信徒常議員に選ばれたのは、このためかもしれないと思っようになりました。

議員は退職後でなければ勤まらないと聞いていたので、現役で朝から残業時間まで働いている私が常議員になるとは想像すらしていませんでした。時間の融通がきき、社会経験豊かで、神学的な知識もある方が選出されれば良かったのに、なぜ私なのだろうというのが就任時の正直な気持ちでした。

実際、常議員会という世界において、年齢的にも私が異質な存在であることは間違いありません。最初には、大変な所に来た時には、大変な所に来た時にと先行きに不安を覚えたものです。冒

頭の話は成功事例にそのような傾向が見られるというところであり、私一人が加わったところで、劇的な変化が生まれるわけでも、ぼんと画期的な施策が出てくるわけでもありません。しかし、私だから言えることも、私だから貢献できることもあるはずだと信じています。平日の昼間に開催される会議が多く、現在も欠席率ダントツ1位を更新中ですが、どういことが困難なのかを互いに認識する中で、仕事を持った人や幅広い世代の人が関わりやすいやり方を見えてくることでしょう。



### 牧師の声

## 「一貫した教会の教育へ」

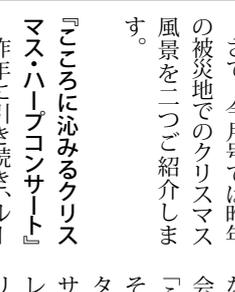
唐津、小城教会 ほこた きよみ 箱田清美

「何となく捕らえようと努めているのです。」彼らは自分がキリスト・イエスに捕らえられているから、そうするのだと言っています。教会の皆さんも、そのような意識をどこかで持ちたいでしょう。それを生涯の信仰のなかで発展させたい。展開したりしていく助けになるもの、それが教会教育でしょう。

この17年ほど、教会の運営する幼稚園に関わる機会を得ましたが、そこで初めて保育者の喜びと大変なご努力とご苦労を知りました。教会は、特に女性の努力で幼児教育に多大の力を注いで来ました。現在100年を超える園の歴史を積み、社

会からも高い評価を得てきました。キリスト教の保育者は「子どもたちに抱き上げ、手を置いて祝福される」イエスの御心を伝えてきました。しかし、残念ながら小・中・高・大という一貫した祝福の制度がルーテル教会の教育には欠けていますので、祝福を幼稚園から大学まで一貫して繋いで行くことが途切れていきます。わたしの担当としております園でも、卒園後は教会学校でとか卒園生のクリスマスという

幼児教育の保育者が心を込めて送り出している卒園児たちを、受け留めていく一貫教育がどこかに備えられないものかと願っています。「わたしの魂は主をあげ、わたしの霊は：神を喜ばます」という心をの奥に頂いて、学生が卒業できる一貫したシステムがどこかに欲しいと願っています。



私はこれまで青年活動や次世代育成の取り組みに関わってきました。何よりもうれしいのは、若い世代が「次は自分たちもやってみたい」と言ってくれることです。近い将来、彼らが信徒常議員に選ばれたとき、思っ存分「よそ者、若者、ばか者」力を発揮できるように、露払いとして頑張ってみようと思っ張っています。



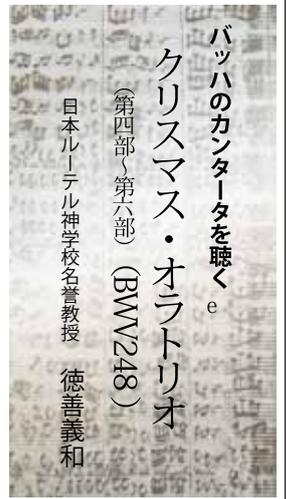
被災地も震災後一度目の新年を迎えました。皆様のお支えとお祈りによりルーテル教会救援の支援活動も今年、三年目を迎えます。今年も引き続きご支援いただければ幸いです。さて、今月号では昨年の被災地でのクリスマス風景を二つご紹介いたします。『ころに沁みるクリスマス・ハープコンサート』昨年引き続き、ルーテル学院大学と日本ルーテル教団・Lutheran Church Missouri Synodのご協力により石巻市の相川保育所、デイサービスセンターはまぎく、仮設追波川多目的団地集会所でレベッカ・フラン

『ころのこもったクリスマスプレゼント!』現在、「となりびと」では、石巻市内6ヶ所(約1000世帯2300人)の仮設団地でお茶っこサロン活動を展開しています。昨年12月には、そのサロンに参加されている方々に北海道特別教区女性の会からのクリスマスカードと雪ヶ谷教会からのお菓子袋、そして、東教区女性の会の方のクリスマスオーナメントをクリスマスプレゼントとして差し上げました。生まれてはじめてクリスマスカードを受け取った方もおられ、どの方も喜んでクリスマスカードとプレゼントを受け取ってくださいました。

**J L E R (ルーテル教会救援) 対策本部**  
現地からのレポート  
J L E R 派遣牧師 野口勝彦

J L E R ブログ  
「ルーテルとなりびと」  
<http://lutheran-tonaribi.blogspot.jp/>





# バッハのカンタータを聴く クリスマス・オラトリオ

(第四部) (BWV248)  
日本ルーテル神学校名誉教授 徳善義和

楽譜を見ると、頭に# やりがついている。今のわれわれにはドレミの音の高さを表す記号くらいにしか思えない。今は「平均律」になり、楽器もそのように調律されているからである。バッハの時代は漸く平均律が導入される頃、ピアノの隣り合う鍵盤の音の間隔もまだ平均的ではなかった。だからハ長調とか、ヘ短調とか言っても、計24になる長調と短調の趣はそれぞれかなり違っていた。これらの調を論じる当時の何人もの音楽評論家の記述を読んでも、調毎の響きの模様を伝えていて面白い。バッハと親しかったマテジウスもいろいろな調について論じて、たとえば口短調などは「傷心の、メランコリックで、常に修道院からは斥けられており、あまり用いられない」調と言っている。ところがバッハはこの調をキリストの苦難や十字架の調として用いて、遂には「口短調」まで残している。当時として



ウィッテンベルク町教会の聖壇画、クラナッハが説教するルターを描いたもの

は格別のことだったのだ。クリスマス・オラトリオの後半は一月一日、新年であつて「主の命名日」の礼拝で歌われた第四部から始まる。音楽の面で言うと、クリスマス・オラトリオは総じて#の調性(長調、口短調とその平行調)で整えられている。それが長調であれば、神の栄光や勝利、その救いの確かさを示し、短調であれば、苦悩や苦難を示すのが当時ある種音楽上の約束事でもあつた。その中で第四部だけはひとつのヘ長調であるのに注目させられる。CDで続けて聴いていると、そこで調性が変わることがはっきり分かる。バッハからほぼ百年前のシュッツのクリスマス・オラトリオもヘ長調である。ルカ二章二節、主の命名のみを伝える聖句に拠るこの第四部をバッハはこの伝統の調で歌い上げようとしたのだらう。「固くて、あまり用いられない」この調を使って、イエスの命名の、

稀な、確固たる出来事の様を示そうとしたのだらうか。バスのアリア(38、40)も、第四部の結びのコーラル(42)もほとんど各行の冒頭で、頑なまでに「イエス」の名を繰り返すのが印象的である。だから跳んでしまつようだが、第六部つまりオラトリオ全体の結びにもなる終曲のコーラル(64)がまた印象的である。キリストによる勝利を歌う歌詞に用いられるメロデーはまたも受難のコーラル「血しおに染みし」であり、しかも全体はこれに基づいた、トランペットの鳴り響く勝利の全楽器演奏がリードしている。これまた、キリスト

の降誕の出来事の信仰的な意味をルターの語った逆説でとらえた見事な音楽的説教と言わなければならないだらう。

## 「希望のはと」

ステンドグラス工房 アスカ  
山崎種之松本教会会員



四十余年前 衝撃的出来事に遭遇し、暗転した心に平安を求めてヨーロッパの旅に出た。ローマでは、アツピア

街道傍らのカリストのカタコンベを訪ねた。キリスト教徒迫害の嵐が激しくなった頃、この地下の暗いトンネルの中に逃れ、礼拝を守っていたといわれる。

その当時の壁画やレリーフの中に、石棺の表にオリブをくわえた鳩を見つけた。無名の素人の印刻(写真上)であるが、今まさに新天地に緑が蘇った「しるし」を持ち帰った鳩の姿である。



ち帰った鳩の姿である。ノアたちは、天窓をこじあけて、待望の緑を見て、どれほどの喜びと感動を持ったことであろう。罪人の世界が大洪水によって壊滅したが、真の平安のある新天地が備えられて

## 第16回 全国青年修養会報告

実行委員長 豊田悠二(京都教会)

11月23日〜11月25日の2泊3日で京都教会を会場に「第16回全国青年修養会」が行われました。部分参加の参加者が多いものの全国の若者も含まれ、総勢27名の青年が集められ、充実した時間を共有することができました。

えに神に認められまし。た。(ヘブライ人への手紙11:1〜12)とし、京都にゆかりのある二十六聖人やキリシタンの歴史を学びながら昔の人たちの信仰を知り、自分たちの信仰を見つめなおす機会が与えられました。

今回のテーマは「信仰」でした。主題聖句を「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確信することです。昔の人たちは、この信仰のゆ

2日目の午前は「京のキリシタン史跡を巡る」という本の著者である杉野栄牧師(洛西バプテスマ教会)をお招きして講演をいただきました。西洋の宗教画における先人観、フランシスコ・ザビエル、キリシタンの生活(信仰・文化・医療・教育)、

二十六聖人を代表とされる殉教のことなど本場に多くの事を知ることができました。

私たちがキリストチャンでありながら知らないことだらけであること、迫害されていた時代も信仰があるからこそ現代まで続いていることを深く学ぶことができました。



\*現在、青年会の活動予定です。

3日目には自分なせ教会に行き出したのか、自分にとつての教会とは何か、自分の信仰生活をどうしていきたいのかをそれぞれグループでシェアをしました。自分の信仰生活のルーツ(壘聖)から未来への話をシェアできたのは良かったと思います。

や状況はブログやFacebookにて共有しています。是非、ご覧になってください。

全国青年連絡会ブログ  
http://kyoblog.fc2.com/  
全国青年連絡会 Facebook  
http://www.facebook.com/zenreiren

# 「神さまの時」

定年教師 山本 裕

『神のなさることは、その時になんて美しい』『伝道の書3・11』



2012年11月22日、

神学校同級生、三浦芳夫くんが天に召されまし

た。前日、M牧師と、三浦知夫牧師と食事を共にし、お父さんのご様子をお聞きしたばかり。「ママアアです。車椅子ですが、割合元気にしています。〇そうか、よかったなー〇」と思っていました。次の日、午前9時頃、知夫牧師から「父が、今朝亡くなりました。まさに絶句です。」

その後、さまざまに電話があり、みのり教会で11月25日(日)午後6時から前夜式、説教は山本、そして26日(月)午前10時半から葬

儀、説教はやはり同級生であった、森部信牧師(九州在住)と決まりました。

前夜式の時、私は、彼の愛誦聖句『神のなさることは、その時になんて美しい』『伝道の書3・11』から説教しました。

その説教の中で、「神学校時代、他の友人たちが、勇ましく激論する中、彼が、ポツリポツリと語った、こんな言葉

を、地道に伝えていきなさい。』。彼が見つめる視点は、少し違うな」と、私は思いました。

「人間の時」よりも『神の時』を、思い見ているのではないか。と。そして卒業してから11地は、彼が願ったような教会でした。

そして一人一人に言葉をかけ、訪ね、手紙を書くと言う、地道な働きが続きました。

「残された者は、天に召されたものに、何も召されることが出来ないが、召された者は、残されたものに、多くのことを語り

かける。これは真実です。牧師としてのそれぞれの道を歩んで50年...、ご子息、知夫先生の所にいらっしやうた三浦先生は、私にとつて再び「三浦くん」に戻りました。

お孫さんと共に、幸いな豊橋(愛知県)での9年間でした。今も奥様に、知夫先生のご家族に、また私に、さまざまことを語りかけます。地上と天上は、続いています。主の平安がありますように。

## 【2013年度 日本福音ルーテル教会 会議日程表】

月	日	曜	時間	会議名	場所
<b>【2013年】</b>					
1	14	月	14:00~20:30	法人会連合推薦理事研修会	市ヶ谷
	16	水	13:00~21:00	教師試験委員会	市ヶ谷
	17	木	9:00~17:00	教師試験委員会	市ヶ谷
	18	金	10:00~16:30	任用試験	市ヶ谷
2	14	水	9:00~21:00	会計監査(~15日)	市ヶ谷
	20	水	15:00~21:00	25-3 常議員会	市ヶ谷
	21	木	9:00~21:00	25-3 常議員会	市ヶ谷
	22	金	9:00~12:00	25-3 常議員会	市ヶ谷
	24	日	16:00~20:00	神学校の夕べ	宣教百年会堂
3	3	日	19:00~21:00	教職授任按手式	宣教百年会堂
	4	月	9:00~21:00	神学教育委員会・宣教研修指導者会議	市ヶ谷
	5	火	14:00~16:00	エキエキニズム委員会(聖公会)	市ヶ谷
	6	水	9:00~18:00	初任牧師研修会	市ヶ谷
	7	木	9:00~13:00	初任牧師研修会	市ヶ谷
	14	木	17:00~19:00	エキエキニズム委員会(カトリック)	市ヶ谷
	20	水	-	教区総会	各教区
4	-	-	-	-	-
5	-	-	2日間	LCM会議(個別協議)	市ヶ谷
6	10	月	15:00~21:00	25-4 常議員会	市ヶ谷
	11	火	9:00~21:00	25-4 常議員会	市ヶ谷
	12	水	9:00~12:00	25-4 常議員会	市ヶ谷
7	-	-	3日間	第1回教区長会(人事委員会)	-
8	12	日	~20日(火)	LWFエキエキニカル国際委員会	京都地域
	27	火	-	第10回 るてる法人会連合総会	宣教百年会堂
	28	水	-	第10回 るてる法人会連合総会	宣教百年会堂
9	24	火	-	初任牧師研修会(~26日)	-
	30	月	14:00~	宣教会議	市ヶ谷
10	1	火	-	宣教会議	市ヶ谷
	2	水	~12:00	宣教会議	市ヶ谷
	10	木	14:00~18:00	教師試験委員会	市ヶ谷
11	5	火	15:00~21:00	25-5 常議員会	市ヶ谷
	6	水	9:00~21:00	25-5 常議員会	市ヶ谷
	7	木	9:00~12:00	25-5 常議員会	市ヶ谷
12	-	-	-	-	-
<b>【2014年】</b>					
1	14	火	14:00~20:30	法人会連合研修会	市ヶ谷
	15	水	13:00~21:00	教師試験委員会	市ヶ谷
	16	木	9:00~17:00	教師試験	市ヶ谷
	17	金	10:00~12:00	任用試験	市ヶ谷
2	13	木	9:00~21:00	会計監査(~14日)	市ヶ谷
	19	水	15:00~21:00	25-6 常議員会	市ヶ谷
	20	木	9:00~21:00	25-6 常議員会	市ヶ谷
	21	金	9:00~12:00	25-6 常議員会	市ヶ谷
	23	日	-	神学校の夕べ	宣教百年会堂
3	2	日	19:00~21:00	教職授任按手式	宣教百年会堂
	3	月	9:00~21:00	神学教育委員会・宣教研修指導者会議	市ヶ谷
	4	水	9:00~18:00	初任牧師研修会	市ヶ谷
	5	木	9:00~13:00	初任牧師研修会	市ヶ谷
	20	火	-	教区総会	各教区

※「事務処理委員会」は、教会規則に基づき、処理すべき事項が発生した時に、随時、開催とする。  
※「東日本救援関係会議」は、原則として本部会議を3ヶ月毎、現地会議を2ヶ月毎の開催とする。

## 公 告

この度左記の行為を致しますので宗教法人法第二三条の規定に基づき公告致します。

二〇一三年一月十五日  
宗教法人  
日本福音ルーテル教会  
代表役員 立山 忠浩

信徒利害関係人 各位  
本教会所管の文京会館耐震補強工事関連の公告(続報)

別途、融資契約の件  
借入先 三井住友銀行  
新宿西口支店  
借入金額  
・ 七億九千七百万円  
・ 七億五千三百万円  
(計九億五千百万円)  
返済期間 九年  
三ヶ月毎の元金均等返済とする。

支払利率 年利二・五%  
程度 変動利率適用  
担保等 「るうてる」二月号掲載の公告記載の不動産担保、質権設定に含まれる。

右資金により、広島会館、大阪会館に係る既存借入残高合計九億五千万円を一括返済する。  
実質的に、借入金増額ではない。

### 【説明】

一二月末借入残高  
・ 広島会館 七億九千七百万円  
・ 大阪会館 七億五千三百万円  
の事実的な返済内容変更である。

イ、右記1の借入金返済期間を、既存の原契約の残存返済期限の九年間を、原契約の九年間を守った形で返済する。

ロ、返済方法を、従来の元利均等返済から、元金均等返済に変更する。  
ハ、これにより、「るうてる」十二月号に公告した耐震補強工事費借入金式億円の返済負担を上乘せした返済の資金負担が可能となる。  
ニ、収益会計の収益にて返済。

「るうてる」十二月号に公告した耐震補強工事費億円の返済を、より確実にするためには、右記1.の措置が表裏一体をなす必要不可欠の条件と言えるのである。

### 【註】

担保に付す土地の公告追加所在 東京都文京区千石二丁目  
地番 七二番一  
地目 宅地  
地積 八九・五二一  
以上

### 広報室より

2013年年度より、JELCホームページをリニューアルいたしました。これまでの内容はそのままに、新しいページを加えて、見やすく、イメージも一新したレイアウトでご覧いただけます。

皆さまの教会や団体で、ご自分のホームページへのリンクをご希望される場合は、広報室にご一報下さい。  
広報室長 徳野昌博